

# 平成25年度 地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告

## ○ 事業の概要

- 1 研究テーマ 『新しい公共』の担い手を育む社会教育行政の在り方  
～住民の社会参画促進のための社会教育施策の展開について～
- 2 目的 本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例や成果の交流を通して、推進上の課題とその解決のための具体的な方策について研修を深める。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター、北海道社会教育主事会協議会
- 4 期 日 平成26年2月13日(木)～14日(金)2日間
- 5 会 場 道民活動センタービル「かでる2・7」(かでるホール他)
- 6 対 象 生涯学習・社会教育を担当する行政職員、図書館・博物館・青少年教育施設等の職員、生涯学習・社会教育関係の各種委員、生涯学習関係団体の指導者、生涯学習実践者 等
- 7 参加状況 参加者総数 257名(定員200名)

	道央ブロック			道南ブロック				道北ブロック			道東ブロック				道外 本庁 等
	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ツ	十勝	釧路	根室	
管内 市町村数	16	5	8	7	6	11	4	17	6	7	12	14	6	5	13
管内 人数	28	50	16	11	8	14	8	27	10	11	22	21	9	9	
ブロッ ク 人数	94			41				48			61				
合計 人数	257(昨年度:233)														

## 8 日 程

	9:30	10:00	10:15	11:30	12:30	13:00	16:00	16:20	17:00
1日目 2月13日 (木)	受付	開講式	説明・報告	休憩 昼食	ワークショップ1 事例発表		休憩 移動	ワーク2 事例発表	
					協議1(途中休憩)				
2日目 2月14日 (金)	9:30	ワークショップ2			休憩 昼食	特別講演		閉講式	
		協議2(途中休憩)							



(1) 本セミナー趣旨、研修テーマ等の説明及び各ブロック研修等の報告

<進行>北海道社会教育主事会協議会副会長	藤野 真一郎 (恵庭市教育委員会)
<説明>北海道立生涯学習推進センター	澤田 慎也
<報告>道南ブロック<檜山管内社会教育主事会>	小林 笑 (せたな町教育委員会)
道央ブロック<後志管内社会教育主事会>	山本 将平 (寿都町教育委員会)
道北ブロック<宗谷管内社会教育主事会>	田村 浩希 (幌延町教育委員会)
道東ブロック<釧路管内社会教育主事会>	三浦 博哉 (厚岸町教育委員会)

説明・報告者からだされたキーワードやヒント

- 全道研→管内研→ブロック研→実践交流セミナーの研修サイクル
- メインテーマは3年目、サブテーマは2年間の1年目となる
- 本セミナーは各管内の主体的な姿勢を示し、この1年間における研究・研修成果を発揮する場
- ブロック研の研修テーマの設定の視点は、まちが活性化するには社会教育は本当に必要なのか？なぜ自分たちが社会教育担当者として存在しているのか？
- 社会教育は何を求められているのか？一人では解決できない悩みや疑問などを共有して、解決へ向けた議論を深めていくことで、地域に必要とされる社会教育の推進や社会教育担当者の専門性を高める一助となる機会とする
- 社会教育は一人ではできないことを理解し人とのつながりを創り上げていくことが社会教育担当者に求められていること
- 同じ悩みを持つ地域に、相談できる環境を作ることができるのもブロック研のねらいの一つ
- 各管内の情報を共有し、たくさんの実践を持ち帰ってもらい、各実践につなげてもらいたい
- 日常業務が行政の目線であるので、民間の視点・考え方を取り入れるためNPOを活用
- そもそも住民参画とはどういうことか、どうして必要なのか
- 住民参画の促進のためには、顔の見える関係性を作り上げ信頼関係を地域の方と築く
- 素材の材料化、行政と民間の役割分担、住民の社会参画は、社会資本の基盤整備
- 日常業務を行っていく上で忘れがちになってしまう目的を振り返ることは大切である
- 企画・立案について、メール電話等だけでは真意が伝わらない。打ち合わせを綿密にする
- 人の意見をまとめていくのは大変だがやりがいもある
- 研修の企画・立案に向けて、その組み立てには、ストーリーづくりが重要
- 学習というのは、本来、社会活動の結果、そこに課題が生まれてその課題解決のために学習行為があるべき
- 人づくり、地域づくりの上で社会教育は大切、それは法の下に裏付けされて行っている
- 民間の取組事例を紹介し、民間の手法で地域、人づくりにどのように社会教育が関われるか
- 研修の組み方にワールドカフェ方式の採用
- リラックスした状態で、司会進行、記録者を設けず、対等の関係で協議をする



(2) ワークショップ1 (事例発表・協議1)

No	区分	事業・取組名	会場	参加者数	管内	発表者	ファシリテーター
1	青年	「過疎と行革に直面する中での『成人式』の事例」	710会議室	37	空知	歌志内市：杉山 俊宏	美唄市：谷村 泰尚
2	一般	第15回生涯学習フェスティバル	730研修室	25	後志	蘭越町：上坊寺 一夫	寿都町：国枝 知
3	少年	夏休みキッズナイト2013自然体験子どもチャレンジ～関係団体との連携を通して～	820研修室	34	日高	浦河町：橋本 恭宏	日高町：横山 宏樹
4	地域	厚沢部町ふくしまキッズ受入事業	1030会議室	13	檜山	厚沢部町：石井 淳平	今金町：白岩 政浩
5	青年	留萌管内高校生リーダー研修会	1040会議室	24	留萌	羽幌町：佐々木 心太郎	小平町：長澤 政之
6	成人	我がまち湧別町のお宝を訪ねる旅	1050会議室	35	オホーツク	湧別町：根子 敏男	訓子府町：佐藤 貴裕
7	読書	地域住民との協働による子どもの読書環境の充実に向けた取組について	1060会議室	19	釧路	釧路町：辻 和彦	浜中町：安住 貴志

ワークショップ1 (協議1) から得られたキーワードやヒント

- ・住民と行政が同じ方向を向いていて、相互理解があってこそ、まちの活性化につながる  
・まちづくりの中心・主役は現役世代であり、話し合いを大切に社会参画を促す
- ・住民の社会参画を促進することで、対人関係が良くなり行政と住民間の関係も良好になる  
・団体等の事務局を行政側が手放し、協力・サポートしながら環境・体制づくりを進める
- ・「お願いしてやってもらう」のは参画とはいえない。ただしきっかけは必要なため、教育委員会からの声かけについて工夫が必要  
・社会参画を積極的に担ってくれる人を探しきれていないため新たな人材の育成や発掘が大切
- ・住民の社会参画を促進することで、地域住民の自主性が高まりアイデアがでて事業が活性化される  
・住民参画自体は進んでいるのではないか。行政側の期待と住民との意識や考えが少し異なるため議論に発展しているだけなのかもしれない
- ・地域住民が社会参画している姿として、「一步前に行く」「企画に参画する」「技術の伝承」等  
・住民参画による効果は、地域の活性化や地域課題解決への踏みだし、居場所・仲間づくりに発展すること
- ・住民の社会参画を促進することで、まちや地域のことを住民が知ることで、次のアクションにつながる  
・住民主体の状況は、協働のまちづくりやより一層の地域住民の主体的活動へと広がる
- ・住民の職業の持ち味を生かすことで事業の幅が、より広がる。キーマンを育てることで行政が支援側にまわれる  
・社会参画の課題として、情報・交通弱者や人間関係スキルの低下等が原因となり、社会参画が難しく面倒な状況に陥ることがある



(3) ワークショップ2 (事例発表・協議2)

No	区分	事業・取組名	会場	参加者数	管内	発表者	ファシリテーター
8	地域	いつヤメるか?今でしょ! 「えにわ通学合宿」 終わらせる勇気...それは 地域を信じる心	710会議室	41	石狩	恵庭市: 藤野 真一郎	恵庭市: 吉野 裕太
9	青年	青年ネットワーク創出 事業「むかわ未来塾」 その後	730研修室	26	胆振	むかわ町: 神田 順之	壮瞥町: 河野 圭
10	高齢者	いきいき教室	820研修室	26	渡島	松前町: 佐々木 健一	鹿部町: 澤田 麻衣
11	高齢者	高齢者教育の取り組み	1030会議室	26	上川	富良野市: 朴木 恒輔	愛別町: 白鳥 俊樹
12	文化 歴史	ユネスコ未来遺産“宗 谷坊人物語”をまちづ くりを活かした取組	1040会議室	18	宗谷	稚内市: 富田 伸司 (歴史・まちづくり研究会)	礼文町: 柴田 圭
13	一般	新得町における全町教 育の取り組みについて	1050会議室	26	十勝	新得町: 川畑 翔平	上士幌町: 牧野 祐也
14	青年	High School Fee' 2013 In Nemuro ~私たちが創り上げる 地域の色~	1060会議室	15	根室	根室市: 餅崎 幸寛	羅臼町: 石崎 佳典

ワークショップ2 (協議2) から得られたキーワードやヒント

- 8 ・できないではなく、できる方法を考え住民が納得する、達成感を味わえるアプローチをする
- ・住民のためのニーズを探り住民のためになることを考え住民の想いを形になるよう支援する
- 9 ・腹を割って話し合い実践できる場をつくり、学びや成果を共有できる場をつくる必要がある
- ・事業をとおしてまちに愛着をもつことを子どもたちに体験させ、役割を持たせる視点が大切
- 10 ・子どもたちに郷土愛を育むことが大切で、担当者は様々な視点を持ち達成感を持たせる
- ・担当者は自ら出向いて情報を聴き取りながら様々な団体同士の連携を探る。また、管内における同じ形態の事業について、連携することも可能ではないか
- 11 ・住民の活動について、行政がアンテナを張り、地域に情報を提供することで協働が進むのではないか。特に高齢者の社会参画促進はゆっくり取り組むことが大切
- ・職員も一住民として動き、住民に危機感を持たせつつ、キーパーソンを発掘し発信させる
- 12 ・地域の方々との関係や仲間づくりをポイントとして、応援してくれる町民をいかに見つけられるかがキーとなる
- ・担当者がいろいろな現場や地域イベントに顔をだし、関係者との関係を密にすることで、住民の社会参画促進につながるのではないか
- 13 ・理想のまちは、子どもたちが住み続けたい、他の町の人が住んでみたいと思うこと
- ・人がつながり地域がつながることで住民と目的、目標、評価を共有することが大切
- 14 ・担当者としての心構えが重要で、まずは実践し、関わり具合を確認しながら推進していく
- ・体験事業等でもスキルだけではなく、つながりやネットワークづくりをねらいに定める。キーマンを組織や団体等から発掘する。担当者自身も主体的な取組をすることが必要



#### (4) 特別講演【道民カレッジ連携講座】

テーマ「限界集落からの脱却-主役は集落、行政は黒子」

〈講師〉 石川県羽咋市教育委員会文化財室長 高野 誠 鮮 氏

##### 講演内容のキーワードやヒント

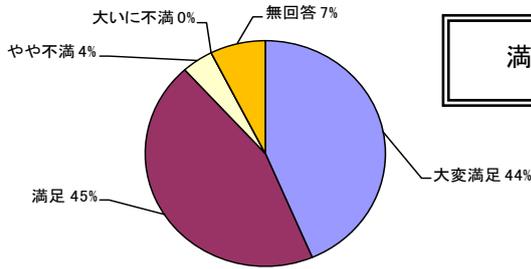
- 多くの会議や膨大な資料、厚い計画書をつくることは無駄ではないが、それで高齢化率は1%でも下がるのか
- 地域住民は、限界にきている集落を何とかしてほしいと願っている。それに応えるしかない
- 実践していない、経験のないことを、あれこれ言うのは、予言者だけである
- 成功するまで失敗してもいいのではないか。失敗しない人はやらない人だけ
- 知識とは、知って行動すること（知っているだけではいけない）
- できない条件を出すばかりでなく、できる理由を理論・哲学をもってあたるべき
- 農村の疲弊は、所得が低いために兼業農家や老後年金での農業従事に原因がある
- 農業・農家の最大の欠点は、希望小売価格をつけられないこと。価格管理が必要
- 事業は予算をつけなくてもやれることはたくさんある。理念に基づいて実践するのみ
- 必要なところに必要な血液（貨幣）をおくる。右手と左手はけんかしない。ケガをしたら全力で治そうとする。痩せた体（疲弊した集落）はリハビリするしかない（お金の投入ではない）
- 根本治療は、自分で小売価格を設定すること、対処療法は、空き家に若者を呼ぶこと
- 烏帽子親農家制度（日本古来のもの）「今日からはお前らはわしの娘だ」
- 大学生は農業では役に立たないが、訪れることで高齢者が元気をもらうことに気づいた
- 農家のレストランでは、看板をつけない（自分で探して来てくださいという考え）
- 1次産品を出さず加工品にして利益を上げる。カボチャ1個が1万円
- 18年ぶりに赤ちゃんが生まれた。「おらが在所の子」という意識の「教育力」が残っている
- 米の状況を外観ではなく中身を見る。うまい米を人工衛星で解析する
- ブランドを決めるのは消費者（影響力の強い人に米を食べてもらう）
- 神子原米を天皇、法皇、大統領、首相に食べさせたい
- ローマ法皇へ神子原米を献上「小さな村と小さな国をつなげましょう」メディアから発信
- 農業から企業（各世帯が2万円ずつ出資し、資本金300万円）へ、「賑やかな過疎へ」
- 神子原米は1年後にブランド化に成功、米を使った超高級ワイン
- 農家の方が農業を続けていて良かったという思いと神子原出身と胸をはって言えるように
- 米や野菜に間違っただけのものを入れない。腐らない米、枯れる野菜（安全安心な食材）
- プラスの要因を探る
- 理念（強い意志）、ぶれない（企画、構成、演出）、プロデュース・マネジメント



# ○ 事業の満足度

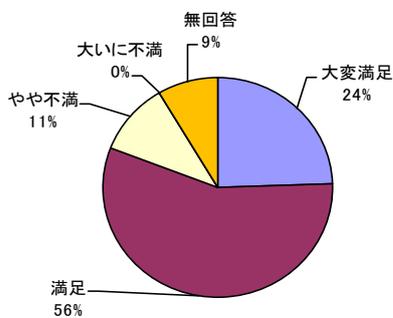
## 1 講座全体への満足度

回答者数 94名 (回収率 36.6%)



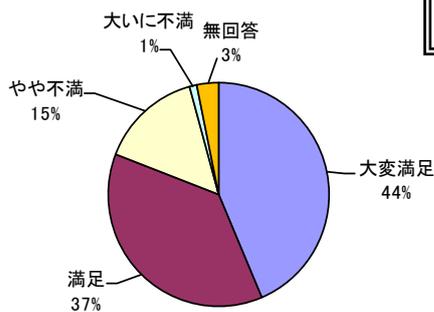
満足度	大変満足・満足 89%	昨年度	84%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	44%	45%	4%	0%	7%

## 2 (1) 説明・報告



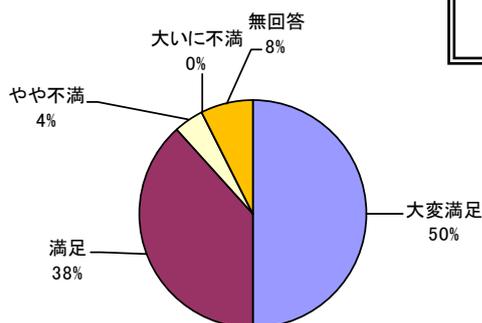
満足度	大変満足・満足 80%	昨年度	79%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	24%	56%	11%	0%	9%

## (2) ワークショップ1



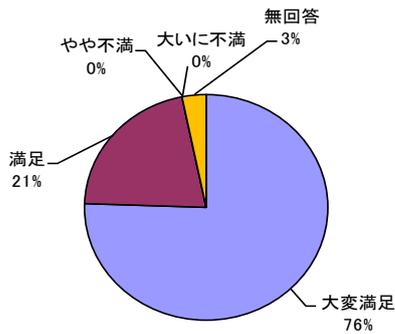
満足度	大変満足・満足 81%	昨年度	78%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	44%	37%	15%	1%	3%

## (3) ワークショップ2



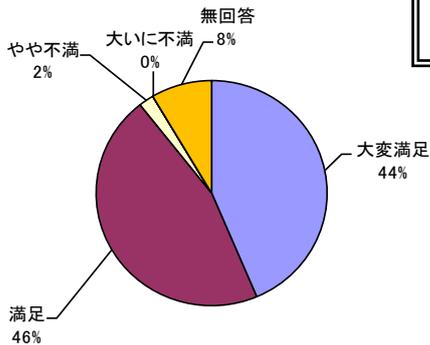
満足度	大変満足・満足 88%	昨年度	78%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	50%	38%	4%	0%	8%

#### (4) 特別講演



満足度	大変満足・満足		昨年度		
	97%		92%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	76%	21%	0%	0%	3%

#### 3 講座の運営



満足度	大変満足・満足		昨年度		
	90%		93%		
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満	無回答
	44%	46%	2%	0%	8%

#### 【参加者の主な声】

- 各ブロック研での取組についてこれからのヒントになる点が多かったと思う。
- 改めて「住民の社会参画とは何か」について考えさせられた。自己の学びにつながった。
- 事例発表は大変まとまりも良く感心した。参考にしたい。
- ワークショップではいろいろな話が聴けて参考になった。
- 社会教育に限らず、違った視点を持って取り組むことがまちづくりにつながると感じた。
- ファシリテーターの進行が良かった。それも練習・経験のためのセミナーではないか。
- 全体的にわかりやすく、グループでの協議も話しやすい内容であった。
- 話し合いが盛り上がり活発な話し合いを行うことができた。
- 各管内でワークショップを1つずつ担当する方法はとても良いと感じた。
- 今まで聴かせていただいた講演の中で最高にためになる内容だった。
- 講演での公務員に対する厳しい問いかけは説得力があった。
- 講演はとてもわかりやすく公務員が何をすべきかを学ぶことができた。
- 講演では涙がでた。行政のゆがみをストレートに話していただいたので心がすっきりした。
- 昨年、前々回からの反省を踏まえ、企画立案に改善がされていることがよくわかる。
- 事例発表が生かされていないワークショップだった。
- 具体的な話が乏しく、理想に偏りがちである。
- 協議のテーマが難しかった。参画についての必要性の理念を詰めるべきである。

